

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年 2月25日

【評価実施概要】

事業所番号	0172000317		
法人名	有限会社 松井		
事業所名	グループホーム レジデンスポピー		
所在地	小樽市入船4丁目2-3 (電話) 0134-31-5373		
評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成22年2月22日	評価確定日	平成22年3月31日

【情報提供票より】 (平成22年 2月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13年 8月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	14 人
職員数	16 人	常勤	16人, 非常勤 0人, 常勤換算 14.2人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2階建ての	1～2 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	共益費 7,000 円 光熱水費 実費
敷金	有 (円) ・ (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	500 円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200 円		

(4) 利用者の概要 (2月 10日現在)

利用者人数	14 名	男性	3 名	女性	11 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名		
要介護3	3 名	要介護4	3 名		
要介護5	4 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 89.9 歳	最低	67 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	済生会小樽病院、松島医院、西病院、松ヶ枝歯科医院
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成13年開設のホームは、グループホームの草分け的存在で、学生寮を改造した施設です。建物はバリアフリーにやや難点がありますが、徐々に改善しており、職員の熱心な介助がこの欠点を補っています。ホーム生活が長い利用者も多く、管理者や職員と家族のような結びつきがあり、温かい雰囲気があります。ホームは、地域との交流を大事にし、ホーム主催の夏祭りは地域の行事として、周辺住民の方々や他のホームからも参加しています。居室は、棚、クローゼット、洗面台、浴室などがあり、生活に便利な構造となっています。

【重点項目への取組状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価で課題とされた外来者の面会簿は、個表様式に改善されています。自己評価から取り組みが必要とした項目も、会議で協議しながら、より優れたホームを目指して改善に取り組んでいます。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価表は職員全員に渡され、時間をかけながら項目毎に検討し、管理者がこれらを整理してまとめています。評価結果からの課題は、会議等で協議し、改善に向けて取り組んでいます。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は、2ヵ月毎定期的に開催し、ホーム運営状況の報告や参加者からの意見や要望など、積極的な質疑応答がされています。推進会議メンバーに行政関係者がいないため、行政との連携を強化するよう検討しています。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族からホーム運営体制や利用者についての意見や要望があった場合は、直ちに申し送りや会議で職員に伝えています。意見や要望は、その内容に応じて早急に改善に取り組み、利用者の暮らしに家族が納得し、安心するように努めています。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホーム主催の夏祭りが公園で開催され、ホーム利用者ばかりでなく周辺住民の方々や他ホームの人たちが参加して楽しんでおり、地域行事となっています。また、高齢者が多いため、職員が中心となってゴミ拾いなど町内会行事へ参加しており、ホームと地域との連携が深まっています。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの理念に、地域や自然とのふれあいを大切にする内容が盛り込まれています。ホームは地域との交流を深めながら、その人らしく暮らせるよう支援に努めています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員のネームプレート裏側に理念が印刷されており、ユニットによって毎朝あるいは決まった曜日に唱和をしながら理念を確認しています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホーム主催の夏祭りには、周辺住民の方々や他ホームからの参加者もあり、地域行事の一つに育っています。町内の会合や行事へも職員が積極的に出席するなど、地域との交流に努めています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価表は職員全員に渡され、日数をかけながら全項目を点検して報告し、管理者がまとめています。自己評価から明らかになった課題は、随時、会議等で協議しながら改善に取り組んでいます。	○	自己評価を職員全員で取り組んでいますが、評価結果を効果的に活用するため、改善計画書の活用を期待します。

小樽市 グループホーム レジデンスポピー

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヵ月毎、定期的開催し、ホーム運営報告の他に参加者からの質疑応答や避難訓練への要請など、活発な意見交換が行なわれています。会議の意見等はミーティングで話し合い、利用者へのサービスへ反映させています。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者やケアマネージャーは、行政担当窓口を随時訪問し、相談等を行なっています。また、小樽市グループホーム連絡協議会で行政関係者とも接触して情報交換を行なうなど、行政との連携に努めています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族への報告は、家族来訪時に伝えていますが、毎月のホーム便りと利用者一人ひとりの写真とコメントを付けた便りを送付しています。ホーム来訪が少ない家族へは電話で報告しています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの苦情処理体制は整備されていますが、主として家族来訪時に職員からも意見や要望を把握するように努力しています。苦情等がある時は、申し送りやミーティングで協議しながら改善し、サービスに反映させるようにしています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	最近、2階のユニットに若干の異動が有りましたが、引き継ぎを十分に行ない、さらに管理者が根気よく話しながら、利用者へ不安やダメージが無いように気をつけています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホームの内部研修は、外部の専門家を講師に呼ぶなど積極的に実施しています。外部研修についても職員に研修情報を提供し、希望や職制に応じて随時参加しています。研修結果は報告書として提出し、職員の共有としています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会を通じて同業者との情報交換もありますが、諸行事を通じてグループホームの相互訪問もあり、同業者との交流が進められています。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者がホームの生活に入る前に家族と十分打合せを行ない、ホームを見学していただいています。ホームに馴染みづらい利用者には、管理者が慎重にコミュニケーションを図りながら、徐々に馴染めるように配慮しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、長い人生経験のある利用者調理方法など教えていただくこともあり、介護する一方的立場にならないよう注意し、お互いに支えあう関係を大事にしています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや意向の把握が困難な時は、家族からの情報を参考にしたり、日常の会話や行動から理解するように努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、家族や医療機関とも十分に話し合いながらアセスメントを行ない、それを基に原案を作成しています。介護計画は、担当者会議で内容を周知徹底し、他の職員にも計画書を回覧して職員の共有としています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、短期目標をモニタリングして計画内容を評価し、必要に応じて再度アセスメントを行ないながら、3ヵ月毎の定期見直しを実施しています。利用者に状態変化がある時は、随時計画の見直しを図り、現状に即した計画への変更を行なっています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の通院や美容院へホームの車両を利用して職員が付き添い、送迎しています。ホーム主催の夏祭り開催やボランティアによる音楽療法の実施、車両による花見や温泉行事など、様々な楽しみごとを支援しています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医療機関による内科系の訪問診療が隔週毎にあります。他の診療科やかかりつけ医の受診も自由です。かかりつけ医等への受診にはホームの車両で職員が付き添って送迎しています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の入居時に、家族に重度化や終末期におけるホームの対応方針を説明しています。重度化等の変化があった場合には家族や医療機関とも相談し、家族の意向も尊重しながら病院への移行を原則としています。	○	利用者の重度化や終末期におけるホームとしての詳細な具体的対応策を明文化し、家族に説明しながら同意書をいただくことを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	家族の面会簿は、外部評価の指摘で一覧性の様式から個票様式に変更しています。介護計画等個人記録類も適正に管理されています。職員の利用者への言葉かけも、プライバシーや誇りを損ねないように十分配慮しています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースや気持ちを大事にしながら、日々の暮らしを安心して楽しくゆったりと過ごせるように支援しています。		

小樽市 グループホーム レジデンスポピー

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	高齢者と介護度の高い利用者が多いため、食事準備や後片付けは一部の利用者に限られますが、職員と一緒に取り組んでいます。食事中は、職員が話しかけたり、食事介護をしながら楽しく過ごせるよう努めています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、居室に備え付けの浴室を利用し、利用者の健康状態を確認しながら、週2回を原則として実施しています。浴室がやや狭いため、2名介助の利用者には時間をかけてゆっくりと入浴を楽しむように支援しています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	身体の元気な利用者は、菜園や食事関連の手伝いなど役割を持ち、ホーム内では手芸、輪投げなどのゲームやボランティアによる音楽療法などを楽しんでいます。ホーム行事の夏祭りも利用者の大きな楽しみごとの一つとなっています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	冬期以外は天候状態を見ながら日常的に散歩をし、希望によって買物にも出かけています。また、ホーム車両を利用して温泉、公園、ショッピングセンターなど、ドライブを兼ねて外出を楽しんでいます。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は正面玄関に施錠が無く、内側にドア開閉のつまみがありますが、利用者はこの使用方法を理解して、自由に開けています。また、ドアチャイムもあるため、利用者によるドア開閉は分かるようになっています。		

小樽市 グループホーム レジデンスポピー

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホームは、災害時対応マニュアルを整備しており、消防署の協力をいただいて年2回の避難訓練と消火器使用方法の訓練も実施しています。また、運営推進会議等でホーム周辺住民の方々に避難訓練への協力を要請しています。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの栄養摂取や水分確保をチェックしています。食事は、利用者の状態等を見極めながら、栄養士によるカロリー計算のもと、厨房専属職員が栄養バランスを考慮しながら食事作りに取り組んでいます。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間兼食堂や廊下など共有空間には、利用者と職員と一緒に作成した季節感のある作品や装飾品が飾られ、温かい雰囲気になっています。利用者の多くは、大型テレビも置かれた居間兼食堂で、職員に支えられながらゆったりと過ごしています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	学生寮改造型の居室は、クローゼット、整理棚、洗面台、トイレ付き浴室があり、生活に便利な構造です。居室には、利用者は馴染みの調度品やテレビなどを自由に持ち込み、居心地よく過ごしています。		

※ は、重点項目。